

SSKO 社会福祉法人 はらからの家福社会

# われら同胞

NO.37



「笑顔は笑顔」 画 大川

☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 巻頭言
- 1年間の振り返り&今年度の抱負
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p 社会福祉法人はらからの家福社会組織図
- 7 p 新人スタッフあいさつ
- 8 p 賛助会コーナー

# 重要法案自由押ししの国会

理事 総合施設長 伊澤雄一

本紙が発行されるころには審議の行方が大筋見えているのかもしれませんが、今国会には「精神保健福祉法改正案」が上程されています。

改正点として大きく注目されているのが、「医療保護入院」制度を見直し、『保護者』の同意に拠る非自発的入院(強制入院)を、その負担を鑑み、義務規定を削除していくとともに、入院中から退院に向けた支援を院内外で推し進めるためのスタッフを配置していくということが主だった内容です。本保護者制度が、はるか昔の「精神病者監護法」(1900

年)にその原型を置き、当時は私宅監置(座敷牢)の正当化のために制度化し、心の病に日本古来の家族制度をもって対応し、要は親が子をいつまでも保護(庇護)し、問題や課題を個人や

家族の問題のまま扱うという非社会性を貫いてきたものです。また「保護者がいないと何もできない人」という精神障がいを負った人たちへの世間の眼差しは実態との違いを強く感じさせるものでありました。そういう観点も含め、本改正は“113年ぶりの大きな転換点”であり、歴史的なエポックと言ふべきものです。

このような背景をもち、いわば鳴り物入りでの改正です。中途半端な小手先の改正にはならぬことをと願っております。がしかし国会上程間際から

聴こえて来るのは、本改正案の中身から本性が失われてしまったと言ふことでした。どこのつまり保護者制度は名称を変えながら、実は残ってしまうであろうという極めて残念な情報です。腹立たしい限りで、為政者の認識を疑うばかりです。(日本はいつまで遅れてるんだ!) 今国会には他にも「障害者雇用促進法改正案」「障害者差別

解消法案」など、“障害者権利条約の批准”という命題に向けた国内の法制度環境の整備を眼目とした法案が続々と審議入りすることとなっています。推移を注視したいと思えます。

社会事象(症状)に対して発せられる『処方箋』としての法律。そういう認識をもち、手ぬるい処方方却って迷惑で、時代錯誤であると強く思う次第です。



# 地域生活支援センター プラッツ

## ～平成24年度事業報告～

(相談支援事業、地域活動支援センター事業、地域体制整備支援事業、計画相談支援、地域相談支援)

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| ○ 実利用者総数：306名                  | (昨年度 290名)                   |
| うち 登録メンバー数：127名                | (昨年度 111名)                   |
| 男性：69名                         | (昨年度 57名)                    |
| 女性：58名                         | (昨年度 54名)                    |
| 平均年齢：48.4歳                     | (昨年度 49.1歳)                  |
| 国分寺市民割合：79% (100名)             | (昨年度 78%)                    |
| ○ 計画相談支援実契約者数：18名 (うち地域相談支援5名) |                              |
| ○ 交流室利用者                       | 延べ人数：5,715名 (昨年度 5,951名)     |
| ○ 来所相談・電話相談                    | 延べ人数：8,265名 (昨年度 8,057名)     |
| ○ 生活支援                         | 延べ人数：979名 (昨年度 792名)         |
| ○ 訪問支援                         | 延べ人数：386名 (昨年度 427名)         |
| ○ 同行支援                         | 延べ人数：149名 (昨年度 137名)         |
| ○ プログラム活動                      | 開催回数：371回 (昨年度 153回)         |
|                                | 参加メンバー総数：2,208名 (昨年度 1,479名) |
| ○ 宅配弁当手配件数                     | 延べ人数：1,604名 (昨年度 1,673名)     |

※H25年3月31日時点

平成24年度も実利用者総数が過去最多となったプラッツですが、年度目標に沿って1年間を振り返ってみます。

社会資源の活用講座として、お薬講座(医療)、栄養講習会(福祉)、LP活動報告会(当事者)、ゴミだし学習会(臨時開催)という計4回のゲスト交流会プログラムを実施しました。他にも、お茶会で社会資源の情報提供、交流室で各資源マップ・クーポンなどを掲示。

20・30代メンバー対象プログラムは、平成23年度に比べ20・30代利用者が少なく、プ

ログラム実施ならず。しかし新たにラジオ体操プログラムを毎日開催し、カオケプログラムを増回しました。

当事者活動支援と拡充としては、LP活動報告会を開き、プラッツ通信冒頭文にてLPインタビューを掲載し、LP活動に興味を持つ方や新規LPも増えました。他にも、オープンスペ

ース利用時の問題点を自分達で解決したいという声から、新たに「ピア協力を考える会」が始まりました。指定相談支援事業は国分寺市内・市外両方の方々に対し、着実に拡がっています。計画相談支援の実績は上記の通りで、18名のうち11名の方々と新たに契約しました。

## ～平成25年度に向けて～

安心して安全な相談支援・地域活動センターI型事業を維持していくために、活動スペースの拡充と職員の増員(特に相談専門支援員)が欠かせません。引き続き定期的な市行政との協議を重ねていきます。

利用者の自主性を発揮できる場の活用や、当事者活動のサポートに、引き続き取り組みます。

個別相談から浮かび上がる地域課題を、制度や政策に反映できるように働きかけます。

各種事業への注力に偏りがでないよう、調和をはかります。

プラッツ 職員一同

# 平成24年度 グループホーム 事業報告

## ピア国分寺 国分寺コーポ グリーンハイツ メビウス

ピア国分寺 松岡 伸吾

平成24年度は4グループホーム(以下GHと記)GH合計で(定員25名)入居者9名、退去者5名になりました。各GH(ユニット)の内訳は以下の通りとなります。ピア国分寺(定員7名)入居者4名、退去者2名。国分寺コーポ(定員6名)入居者2名、退去者1名。グリーンハイツ(定員6名)入居者2名、退去者1名。メビウス(定員6名)入居者1名退去者1名。23年度より続いた入退去時期の集中が一段落し、3月末の時点で利用者数は24名となっております、高い入居率で推移しています。事業課題であったGH事業の一体的運営についてはG

H共同でのバーベキュー会や他GHへの茶話会参加、副担当制等が定着し、1月にあった異動も円滑に行うことができました。

は依然として高く、地域移行と併せて今後ともしっかりと取り組んで行きたいと考えています。

今年度のショートステイ事業は既に東京都と受託契約を取り交わしていますが、昨今

ピア国分寺が東京都から受託している「グループホーム

活用型ショートステイ事業」

(以下ショートステイ)については、14名(前年度14名)

の方が述べ175日(前年度172日)利用されています。

人数、日数とも前年度同様ですが、地域で既に住まわっている人の利用日数が初めて入院中の方の利用日数を上回りました。諸々の要因があつたことですが、地域で生活されている方の潜在的なニード

今年度のショートステイ事業は既に東京都と受託契約を取り交わしていますが、昨今

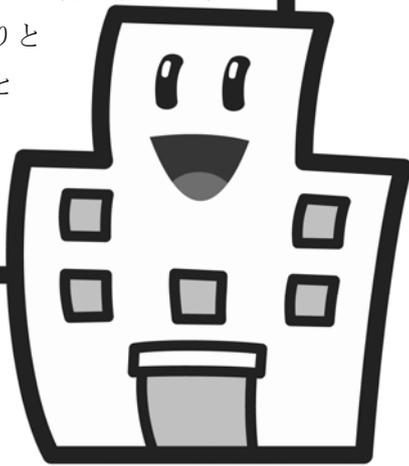
ピア国分寺が東京都から受託している「グループホーム

活用型ショートステイ事業」

### 平成25年度抱負

25年度は24年度の計画通り、グリーンハイツとメビウスをピア国分寺のユニットとして統合し事業を開始しています。GH部門の経営、会計を一体化したことにより円滑な運営実践が出来ると考えています。さらに、26年度からはグループホーム・ケアホームの統合や、ヘルパー利用が可能となる等、制度的にも大きな節目を迎えます。

新しい体制作りにむけて利用者の不利益にならない様しっかりと準備を進めて行きたいと思えます。



# さつき共同作業所

## 多機能型

### 就労継続支援B型

#### 自立訓練（生活訓練）

作業所職員一同



小規模作業所から就労継続支援B型・自立訓練（生活訓練）の多機能型事業所へと移行して1年が経ちました。事業移行に伴い増大した事務作業に追われ、まさにあつという間に時間が過ぎたという思いがします。今年度は、はらからの家福祉会初の人事異動が実施され、さつ

きはベテラン職員を欠くことになり、不安も有りましたが、其々の事業所で経験を積んだ職員が入った事で、新たな考え方が加わり、滞っていた課題も少しずつ改善されてきています。

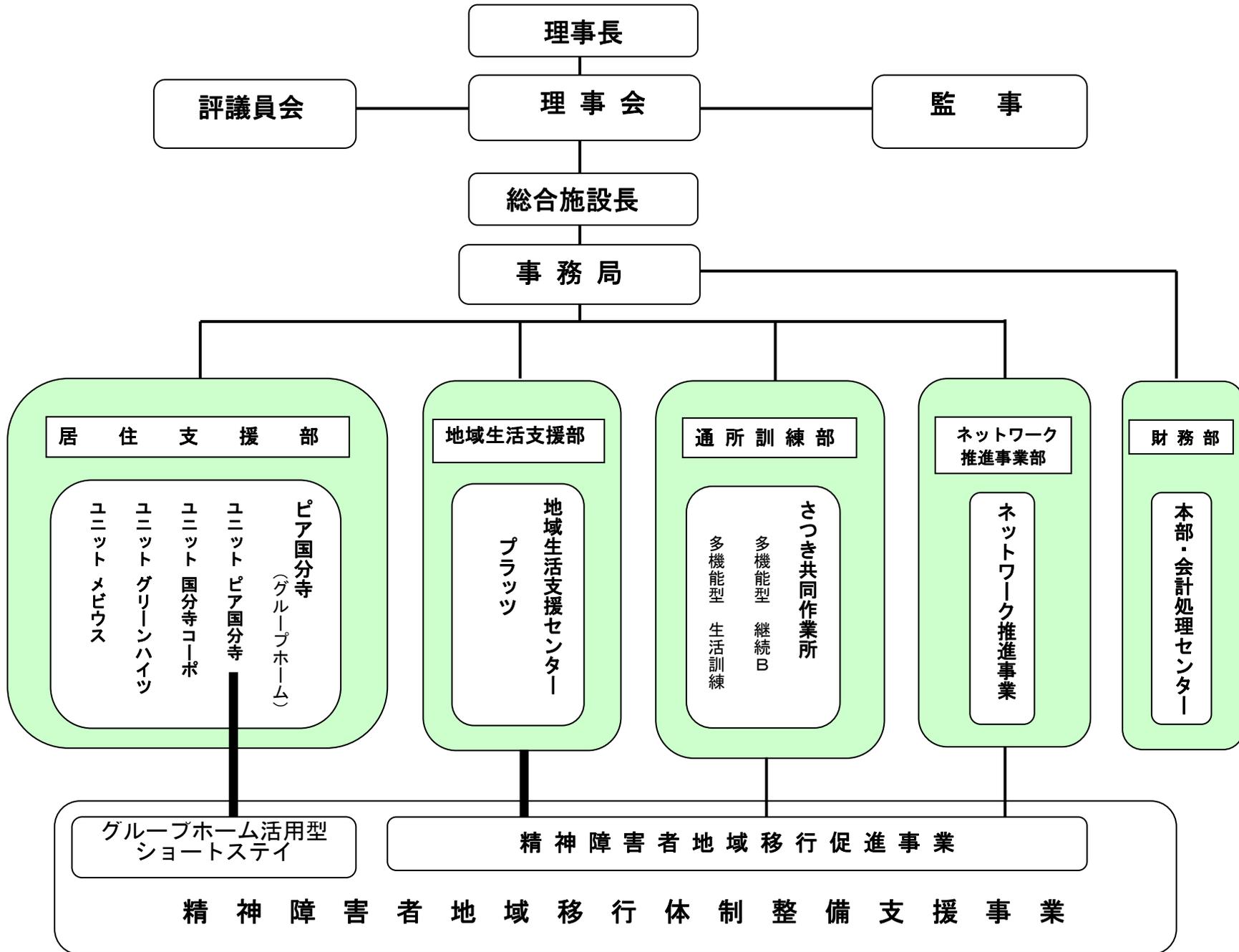
就労継続支援B型は、定員25名、登録者27名、実利用者年間平均12・5名と約46%の通所率になりました。

24年度は作業を就労訓練としても利用できるような見直すための話し合いを繰返し行ってきましたが、実施までには至らず、作業工程の見直しや工賃の見直しは今年度の実施に向けて、出来るだけ早く具体的な内容を提示できるように日々奔走している最中です。

自立訓練（生活訓練）は、定員15名、登録者23名、実利用者年間平均10・3名で訪問の登録者3名を除く実通所者の通所率は約51%になります。月平均の訪問回数は6・6回ですが、利用者は着実に増加傾向に有り、充実した職員体制が必要になります。

新しい事業である生活訓練は戸惑うことが多く、研修による知識の習得や関係機関と協働し、職員間で話し合いを重ね、生活訓練としての個別支援のあり方の共有を行ってきました。また、実生活を意識した生活訓練プログラムの充実をはかり、グループ活動を通じた支援も継続して実施していきたいと思えます。

社会福祉法人はらからの家福社会 組織図(平成 25 年度)





本部会計  
宮坂 直子

はじめまして、5月から事務の非常勤として働くことになりました宮坂直子です。北海道出身の生粋の道産子です。

東京に来て6年程経ちますが、まだまだ北海道弁が取れません。その影響で主人が(長野出身)北海道出身に間違われるほどです。

私ははらからの家福社会が行っているような様々な福祉サービス事業所とはあまり接する事が無い生活を送ってきました。その為、解らないことが沢山あります。皆様にご迷惑かけることも多いと思いますが、一生懸命頑張りますので宜しくお願いいたします。

# 新職員紹介

さつき共同作業所  
遠藤 花織

4月から新しく作業所の職員になりました遠藤花織と申します。この春大学を卒業したばかりの22歳です。大学時代は学園祭実行委員会に所属し、四六時中祭りのことで頭がいっぱいで勉強はほとんどしませんでした。しかし、大学2年の夏にカナダへ行った際にMSWの方と出会い、「こんな場所でもワーカーさんと出会うなんて自分はこの道に縁があるのに違いない!」という勝手な思い込みでPSWを志しました。そして、「はらからの求人情報を見た時に「きつと私はここで働くんだろうなあ」と感じたのもきつと何かのご縁です。分からないことばかりで沢山ご迷惑をおかけすると思いますが、一日でも早く仕事を覚えて、またご縁を大切に頑張りたいと思います。まずは車の免許を取れるように頑張ります。

## ネットワーク推進事業について 岡本 和子

今思えば6年前、さつき共同作業所が自立支援法によって移行を考えなければいけない時から、ネットワーク推進事業という構想が始まっていたのかと思う。法律に合わせて事業を作るのではなく、疾病と障害が併存する精神障害の方々が、少しでも安心して地域で暮らす上で必要な資源を作りたいと考え、副理事に生活の観点から観る精神科クリニックを作ってもいい連携した。当然ながら当法

人にない家族会、就労支援、訪問看護、病院などの機能や、市内の他法人、他市の地域活動支援センターやグループホームなど、連携すべき資源は沢山ある。今までになかったわけではないが、「障害を持つ人も住みやすい地域社会の創造」のための医療・保健・福祉の効果的連携を目指そうと立ち上げられたのがこの事業である。今あるものを大事にして、改めて多くの方々が社会資源を利用しやすいきっかけを作れたらと思う。



さつき共同作業所  
松山 豊大

以前は、知的に障がいがある方に対して支援する仕事をしていました。そんな中、去年1年間ではありますが、精神に疾患をお持ちの方に對しての支援を学び、その経験を生かして、今後の仕事に取り組んでいきたいと考え、ご縁もあり、はらからの家福社会でお世話になることになりました。色々ご迷惑をかけることもあるかとは思いますが、よろしくお願いいたします。

平成25年5月1日からはらからの家福社会でお世話になることになりました松山豊大と申します。

# はらからの家福社会賛助会 ㊦㊧㊨

<平成24年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

生田 淳一 伊藤 義明 伊藤 善尚 上原 愛子 大谷 泰造 加藤 房子 加藤 初江  
 川崎 嘉代 北村 道子 小宮 敬子 坂田 晴弘 坂元 信幸 佐藤 久夫 須長 靖夫  
 高見 法孝 高木 健一 豊泉 淑江 長澤 則子 中村 元彦 藤田 英親 本城 和夫  
 森 美知子 山田 正則 石川 満 山川 進  
 伊澤 美枝子 倉田 良志子 佐藤 和喜雄 高橋 千恵子 野崎 多美子 野々瀬 悟子  
 渡辺 千代子 にしの木クリニック レタスの会 長谷川病院医療社会事業部  
 吉祥寺病院医療相談室 匿名2名

敬称略

会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

## 24年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
一般物品費	0	賛助会費収入	685,688
会議費	0	(133名)	
郵便手数料	11,240	雑収入(利息)	6
雑費	2,100	前期繰越金	105,726
法人寄附	760,000	合 計	791,420
当期繰越金	18,080		
合 計	791,420		



※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、平成25年度賛助会費、何口でも結構です。お振込みいただくと幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会  
〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073

東京都世田谷区砧 6-26-21

【定 価】¥120